

# 武蔵野市の年次財務報告書概要 平成17年度版

## § I 一般会計の概要について

### 1 貸借対照表

#### (1) 財政状況の推移

平成17年度の資産合計は2,574億円(前年度比61億円増加)、負債合計は411億円(同2億円減少)、正味財産合計は2,163億円(同63億円増加)です。正味財産比率(総資産に占める正味財産の割合)は84.1%と高い水準です。

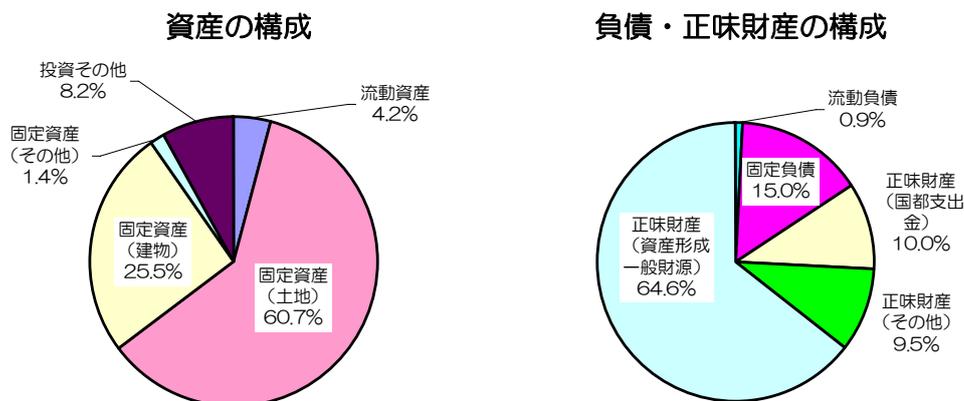
年 度	人 口 (各年度末)	資 産 (A) 百万円	負 債 (B) 百万円	正味財産 (C) 百万円	正味財産比率 (C) / (A) %	市民1人当たり(万円)		
						資産	負債	正味財産
平成13年度	131,388	238,149	40,787	197,362	82.9	181	31	150
平成14年度	131,311	238,830	41,377	197,453	82.7	182	32	150
平成15年度	131,149	247,646	41,682	205,964	83.2	189	32	157
平成16年度	132,515	251,329	41,285	210,044	83.6	190	31	159
平成17年度	133,990	257,358	41,033	216,325	84.1	192	31	161

市民1人当たりによると資産192万円(前年度比2万円増加)、負債31万円(前年度同額)、正味財産161万円(同2万円増加)です。

武蔵野市		市民1人当たり で見ると →	市民1人当たり	
資産 2,574億円	負債 411億円 正味財産 2,163億円		資産 192万円	負債 31万円 正味財産 161万円

#### (2) 資産・負債・正味財産の内訳

下の図のように、資産のうち87.6%が固定資産、また資産の60.7%が土地となっています。これは、平均地価の高い武蔵野市の特徴ともいえます。負債及び正味財産では、負債が全体の15.9%、正味財産が84.1%になっています。正味財産の比率が高いということは、資産形成について、現在までの世代ですでに負担し、将来の世代へ引き継ぐものが多いことを意味します。



#### (3) 固定資産明細表及び市有施設の更新コストと財源について

市有施設の計画的な維持・更新については、平成16年度に市有施設の劣化診断に基づく「公共施設保全計画」を作成しました。また、市では施設の更新、新設や土地取得のための自己資金として、公共施設整備基金などの基金を積み立てており、平成17年度末の残高は143億円です。市としては、市有施設の更新や新設にあたっては、できる限り世代間の負担の公平性を保ち、バランスの取れた資金調達をしていきたいと考えます。

平成17年度の固定資産の増減明細は次の表のとおりです。増加は、境や関前の公園用地などの保有土地の増加や、二俣尾自然体験施設の開設及び本宿小学校・第四小学校耐震補強工事をはじめとする小中学校の施設改修工事、市庁舎の耐震補強工事、市営住宅の改修などによる資本的支出です。

固定資産明細表

(単位：百万円)

資産の種類	前期末 取得価額	当期 増加額	当期 減少額	当期末 取得価額	当期末減価 償却累計額	当期 償却額	差引 当期末残高
(1) 土地	154,069	2,673	698	156,044	0	0	156,044
(2) 建物・構築物	104,930	3,770	1,604	107,096	41,429	2,645	65,667
(3) 備品・車両	1,806	105	130	1,781	1,188	98	593
(4) 事業負担金	3,553	593	0	4,146	1,447	126	2,699
(5) 建設仮勘定	112	583	112	583	0	0	583
固定資産計	264,469	7,725	2,543	269,650	44,064	2,869	225,586

\* 数値は百万円単位で四捨五入しているため、合計と内訳が一致しない場合があります。

#### (4) 市債の残高と返済能力

市債残高273億円は、収入（一般財源）414億円の0.66年相当となり市債残高は低い水準です。

収入（一般財源）と市債残高 (千円)

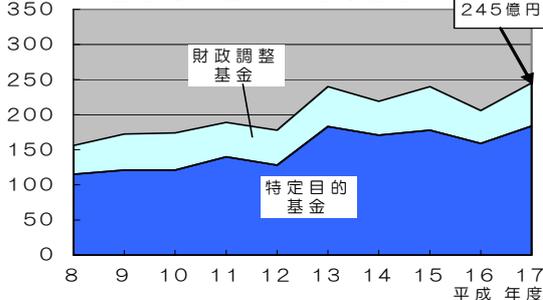
	収入（一般財源）(A)	市債残高(B)	(B)/(A)=(C)年
平成13年度	45,361,602	26,954,612	0.59
平成14年度	39,088,398	26,124,445	0.67
平成15年度	41,445,242	28,234,327	0.68
平成16年度	39,309,134	28,374,377	0.72
平成17年度	41,370,050	27,310,090	0.66

※収入（一般財源）は市税、地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、特別地方消費税交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金、地方交付税及び交通安全対策特別交付金の合計額としています。

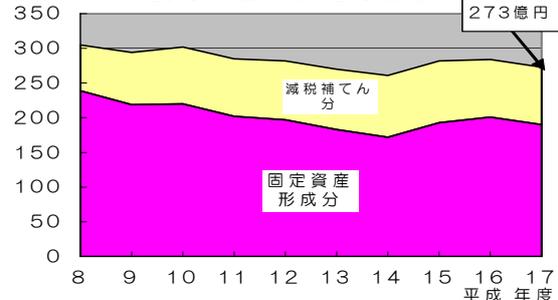
#### (5) 基金と市債の状況

市債残高から基金残高を差し引いた純債務は、平成16年度の78億円から28億円と減少し、低い水準を維持しています。

基金の年度末残高の推移



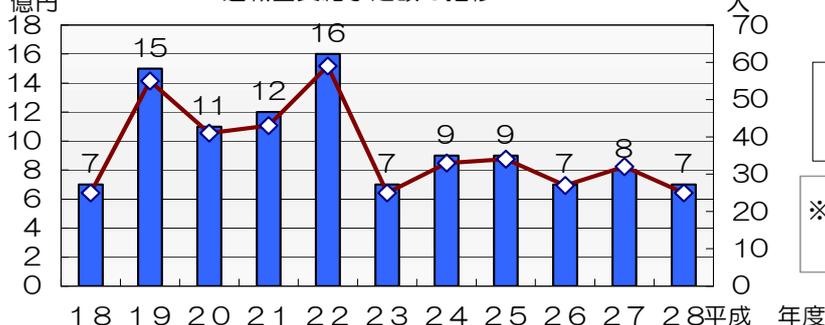
市債の年度末残高の推移



#### (6) 退職金支給額について

退職者数がピークとなる平成19年度から22年度の4年間で合計54億円程度の退職金の支払いを見込んでいます。一年度の平均的な退職金の支払額は10億円程度ですので、この4年間の負担増はおよそ14億円になり、財政調整基金の取崩しなどの対応が必要となります。

退職金支給予定額の推移

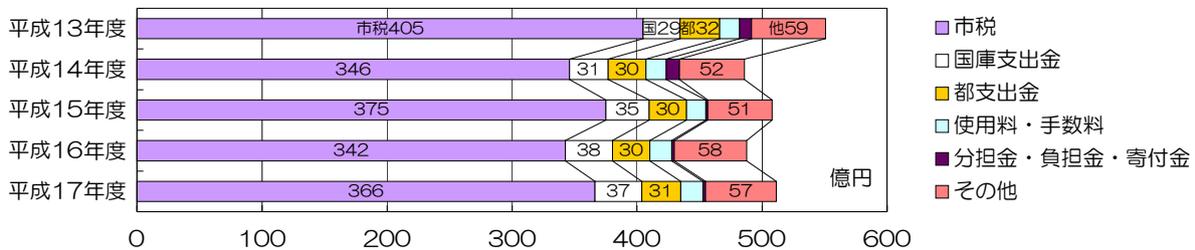


※支給額は人事課の試算によります。

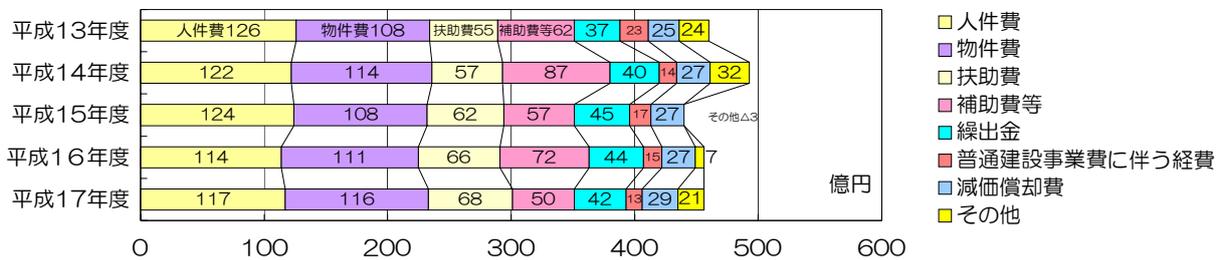
## 2 行政コスト計算書

行政コスト計算書の収支差額は、1年間に提供されたサービスのコストが当期の収入で賄えているかどうかを示すものです。平成17年度の市民税や固定資産税などの市税は、平成16年度より24億円増加して、366億円（収入の71.6%）となりました。武蔵野市の平均的な税収入は350億円前後で推移していましたが、国の三位一体改革に伴う税源移譲、税制改正などにより変動が予想されます。

行政コスト計算書の収入の推移



性質別行政サービスコストの推移



## 3 キャッシュ・フロー計算書

行政サービスに関する収支差額では、法人市民税の増や税法改正に伴い個人市民税の市税収入が増加し、また16年度にあった法人市民税の還付金がなくなり補助費等が大幅に減少したため、92億円に増加しました。資産形成に関する収支差額では、大野田小学校校舎改築事業や吉祥寺シアター建設事業等の完了により普通建設事業費が減少した結果△42億円となり、16年度に比べ資金の不足額が36億円減少しました。財務活動に関する収支差額では、市債発行額は11億円で16年度より17億円の減、また基金から21億円を取り崩したものの、61億円を積み立てたため全体としては△50億円となりました。その結果、収支差額合計は2500万円となり歳計現金として29億円を翌年度に繰り越しました。

## § II 連結会計の概要について（一般会計、特別会計、公営企業会計、財政援助出資団体）

平成16年度連結会計の財務諸表（単位：億円）

		平成16年度	平成17年度	増減
貸借対照表	資産(A)	3,120	3,206	86
	負債(B)	677	694	17
	正味財産(C=A-B)	2,443	2,512	69
	正味財産比率(C/A)%	78.3	78.3	0.0
行政コスト計算書	行政サービスにかかる収入(D)	792	825	33
	行政サービスコスト(E)	776	765	△11
	収支差額(F=D-E)	16	60	44
キャッシュ・フロー計算書	行政サービス資金収支(H)	49	102	53
	資産形成資金収支(I)	△79	△51	28
	財務活動資金収支(J)	39	△35	△74
	当期収支差額(H+I+J)	9	16	7
年度末現金残高		82	98	16

※連結の対象は、一般会計、特別会計、公営企業会計（水道）及び財政援助出資団体（次ページの表参照）です。

### 1 連結貸借対照表

資産は、基金の増や市庁舎の耐震補強工事、小中学校の施設改修工事などによる固定資産の増などにより86億円増加しました。負債は、市債発行の減少による長期借入金の減少や、土地開発公社の借入金の減少があったものの、一般会計の退職給与引当金の増や下水道事業会計の公共下水道建設費用の負担金のための借入金増などにより、17億円増加しました。

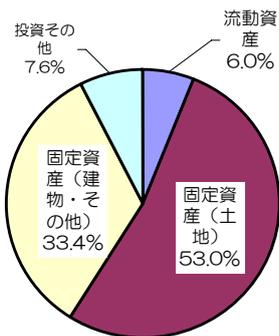
資産と負債の差額である正味財産は、2,512億円（前年度比69億円増加）、市民1人当り187万円となりました。一般会計の正味財産2,163億円の1.16倍です。

財政援助出資団体	
項目	
出資団体	(財) 武蔵野市開発公社
	武蔵野市土地開発公社
	(財) 武蔵野市福祉公社
	(財) 武蔵野文化事業団
	(財) 武蔵野健康開発事業団
援助団体	(財) 武蔵野スポーツ振興事業団
	(社) 武蔵野市シルバー人材センター
	(社福) 武蔵野市民社会福祉協議会
	武蔵野市国際交流協会
	武蔵野市子ども協会
(社福) 武蔵野	

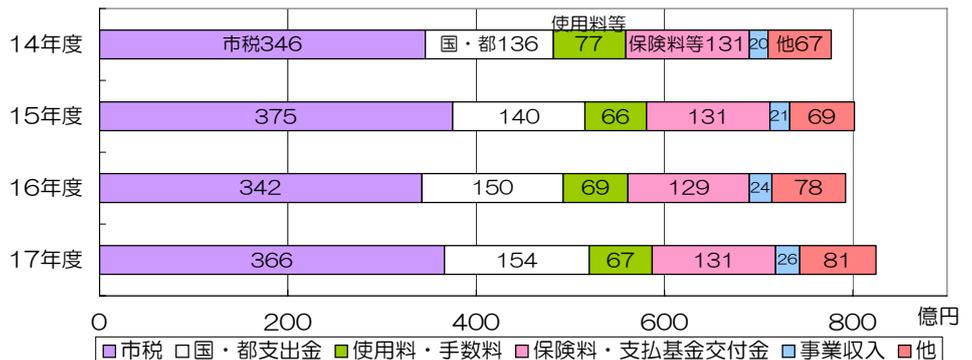
### 2 連結行政コスト計算書

連結会計の行政サービスコストは765億円（前年度比11億円減少）、収入は825億円（前年度比33億円増加）であったため、収支差額は60億円となり、前年度に比べ44億円の増加となりました。収入の増加は、市税収入の増加などによるものです。支出の減少は、補助費の減や武蔵野市土地開発公社で土地購入の減などによるものです。

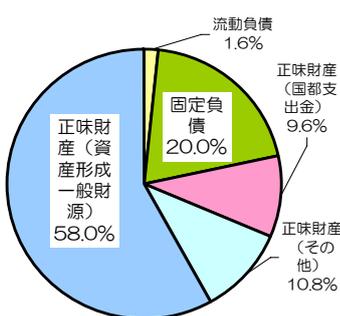
連結貸借対照表  
資産の構成



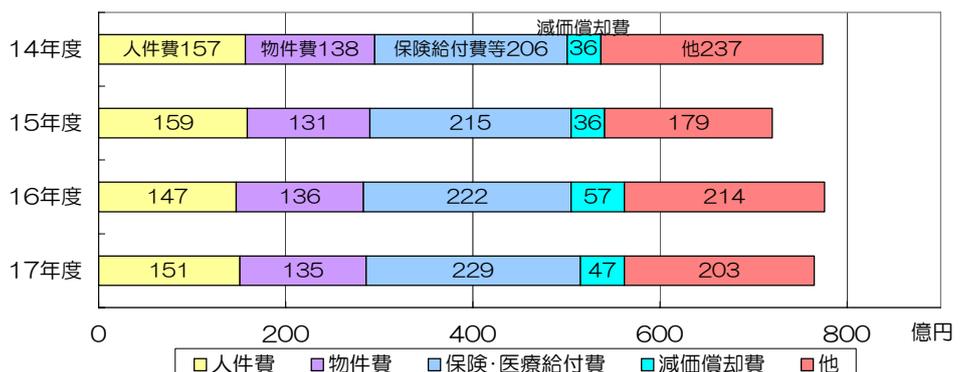
連結行政コスト計算書  
収入の推移



負債・正味財産の構成



性質別行政サービスコストの推移



### 3 連結キャッシュ・フロー計算書

連結会計の資金収支は、行政サービスで102億円、資産形成で△51億円でした。この資金不足は、借入金や基金の取崩しで資金調達されています。財務活動（市債の発行・償還や基金の積立・取崩しによる資金の運用・調達）の収支差額は△35億円でした。当期の収支差額合計は16億円となり、歳計現金98億円を翌年度に繰り越しました。

連結財務諸表からは、武蔵野市と財政援助出資団体が全体として健全な財務状況であり、今後とも持続可能であることを示しているといえます。